

調査日 群馬県森林組合連合会共販所 1月11日(初市)

今回は”初市”なので、新年の顔見世と言うか沢山の応札があった。入札単価も初市だから、まあこんなもんか。といったところだ。ヒノキで 20,000 円/m<sup>3</sup>に達する物件もあったがさしずめ”お年賀”と言ったところか？ しかし「今年は市場が活性化してほしい」と言う買方側の本音も垣間見える。

県森連の明細書は落札した物件には、次札単価と右端の欄外に応札枚数が表示されている。買方になるべく多くの情報を提供しようとする物だが素生協は”情報は買方の方が持っている。必要以上の情報は与えない”言い、二つの市場の性格の違いが出ている。

しかしこれは大切な数字で、買方市場の内情を多く含んでいる。今までの県森連の明細書の右端の欄外の数字と今回のそれを比べて見てほしい。明らかに応札枚数が踊っている様に見える。これは、初市なので買方の人数が多かったためと思われる。そこで、判ったのは、市場が活性化している訳ではなくて、目ぼしい物件にだけ札が集まってこんな枚数になった様だ。結局、今市場が必要なものと、いらぬ物のコントラストが強く表れたに過ぎない。

価格についても、”高値が出たら次札を見るべし”なのである。次札が落札価格に迫っていれば、適正価格と判断出来るが、離れていると”トバシてしまった”とか”やらかしちゃった”と言う事であり、相場としては、次札か3番札が適正価格になる。「相場は2番札にあり」と言われるゆえんだ。

今回は物件当たりの応札が多い事から、やや飛ばし気味の様だ。

さて売れた物件は良しとして、こんな時目を向けなければならないのは、売れなくなった物だ。今まで 20,000 円/m<sup>3</sup>以上の高価で、スギやヒノキを見下していたカラマツが、札も入らなくなった。元々県森連にはあまり良いカラマツは少なかったのだが、住宅着工数の減少はかなり深刻だ。

日本の合板メーカーは、厚みのある構造用合板が、主力で住宅着工数があれば、大量に消費できる反面、住宅が建たないと原木の受け入れもすぐに在庫過剰になる。

更に、追い打ちをかけているのが、輸入される筈の無い“シベリヤカラマツ”（業界名では”ソ連唐”）が中国経由で流入しているらしい。シベリアのタイガ地帯と中国東北部は繋がっているの、ハードルは低い。経済制裁で困窮するロシアの足元を見て、中国が安く買い付け、日本に送る。過剰な製品の在庫を抱えつつ、工場を廻さなければならない合板メーカーは安い原木で凌がざるを得ない。

我々林業者は、木材生産と言う使命の他に、森林管理と言う使命を持って事業に当たっているつもりだ。その立場から見ると、商社と言う物は、なんと節操が無い俗物か。又、

金儲けが美德とされる中国の商売も醜い物だ。

調査日 素材生産協同組合 1月17日

素生協に市場は相変わらず入荷した材で溢れている。荷受けをする土場は入口付近で事務所の前などで、事務所の玄関前は一人がやっと通れる際まで丸太が迫っている。更なる奥は、通路が完全に荷下ろし場になっていてこの辺りに降ろしてある材が、選別されて市に掛けられるのはいつになるやら、見当が付きかねる状態になっている。そのため、毎年3月に行われる”上州産優良素材展示会”は役員会で、今年度は中止せざるを得ない事が決まったそうである。

入口付近は通路が無いほどの丸太の山だが、奥に進むと極積するための土場は空いている場所もあり、市に掛かっている物件もさほど多くはない。落札した買い方が、落札物件を引き取らないため極積する場所が空かないためだ。

「上州産優良素材展示会」は県森連で言えば12月の”優良素材展示会”に並ぶもので、県知事賞も用意されている重要なイベントだが、これが中止されるのは藤岡市内の時代を含めても初めての事だろう。

素生協の市場は「来る物は拒まず」で受け入れているが、さすがに今回は秩父広域森林組合の他、何件か入荷を断った例があるそうだ。それにしても、森林組合が夏に伐って山土場に放置され、県森連が入荷を断った材も受け入れてくれた事には、頭が下がる。但し、県森連が森林組合に対して、入荷を断った事が事実ならこちらの方が重大な違反行為と言える。まあ、材の姿はかなりひどい物ではあった。山に放置した森林組合の責任は大きい、県森連はそれを引き受ける責任がある。いずれにしても、素生協の市場はかなりの機能低下に陥っているのは一目瞭然だ。

素生協の選別機は、県森連の物より選別ゲートが多く、選別能力は高いと言える。しかも、事務方と土場方は分業で、市の当日まで作業を行っているのに、機能低下に陥る原因は、落札物件が引き取られずに、市場に居すわる事に有る。買い方も製品在庫を抱えて、材の引き取りを控えているためだ。

県森連の報告に書いた、”ロシア産カラマツ”についてだが、日本に入り始めたのは昨年9月頃の様だ、今回もカラマツの出品があったが、吉本林業が落札している。

いつも、林ベニヤ や 伊藤忠 住友林業 などに抑えられて2番札お香に甘んじていた買い方だが、今回は大手の買い方が姿を見せないため、1番札になった様だ。

そのため、24,000 円/m<sup>3</sup>位で維持していた単価が 21,000 円/m<sup>3</sup>に下がった。相場が下がったのではなく、大手の商社が、ぱったりと買わなくなったため、下位の札が表れたと言う事で、商社の変わり身は早い。材の引き取りも 9 月頃から止まり9月に落札した材を引き取ったのは、年末だったと言う事だ。この間ロシア産のカラマツが流入してきたものと思われる。カラマツも 40 cm φ 以上の良材は見向きもされない。合板工場で作る機械には入らないからだ。今回も見事に残っている。もてはやされるカラマツがいかにも用途が狭いかを示している。

こんな中でバイオマス燃料は安いながらも動いている。燃やせば在庫は消滅する。ただ気になるのは、私の知る限り古代文明で木材を燃料にした文明はすべて消滅して砂漠になった。持続可能でない使い道をしたからだろう。